

子どものための建築・まち学習プログラム「だがねランド」

財団法人 名古屋都市整備公社 名古屋都市センター 殿
名古屋市立大学鈴木賢一研究室
代表 正会員 鈴木 賢 一 君

子どものための建築・まち学習プログラム「だがねランド」は、地域の小学生と中学生たちにまちづくりの実際を体験させる独創的で教育的な学習プログラムである。名古屋市立大学鈴木賢一研究室と名古屋都市整備公社名古屋都市センターが共同して、2006年から始められたこのまち学習プログラムは、今年度で5年目となる。名古屋都市センターまちづくり広場を会場にして、子どもたちがまちを計画し、創作して、そこで活動し、最後にはまちを解体するという1か月のプログラムで、夏休みの期間を利用して行われている。まず1/10の模型づくりからスタートして、町の中に、だがね劇場・だがねショップ・だがね銀行・だがね新聞・放送局・ポップケーキ・ダガネポリス・トイサラス・だがねアカデミー等々の店が並び、子どもたちが考えるまちの姿が造形として立ち現れる。その中で、住民登録、商品の製作と販売、仕事の斡旋、通貨「ダガネ」の利用、町長選挙と議会、都市計画ワークショップ、建築ワークショップ、夏祭り、建築資格試験、だがねデザイン賞等の活動が仕組みられていくという2段階の構成を持っている。これらの活動は毎年の「だがねランド」の中から生み出され、このまちに現実の深さを与え始めている。毎回200人を超える参加者を集めるこの学習プログラムは、5年間の延べの開催日数が147日、参加した子どもたちは1万人を超える大きなまちづくり活動に育っている。

この活動は、子どもたちが現在のまちづくりを理解し体験するための巧みで独創的な教育プログラムとなっている点、多くの子どもたちが参加して多様な場がつけられてさまざまな活動が展開されている点、毎年そのシステムやかたちに変更を加えながら教育プログラム自体が成長し改善されている点、名古屋市立大学鈴木賢一研究室と名古屋都市整備公社名古屋都市センターの努力によって5年間継続している持続力のある活動となっている点、ファシリテーターとして参加する大学生達にもこの活動がまちづくりを理解するための貴重な機会になっている点等が高く評価された。制作したまちを壊した後のゴミを前にして、その適切な処理や再利用を真剣に検討している子どもたちの姿、議会や祭りでの楽しそうな笑顔は、この活動が底意として持っている「子どもからまちへのまなざし」が健全に育っていることを実感させ、学習プログラムがもつ秀逸な力の証となっている。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。